

ドラッグインフォメーション

2019年4月改訂

販売名	イソプロパノール「ヨシダ」			製造販売	吉田製薬株式会社																	
局方名	日本薬局方 イソプロパノール																					
洋名	Isopropanol	一般名	イソプロパノール	販売年月	2008年3月	薬価収載年月	2008年3月															
剤形	液剤			薬価	10mL 4.90		健保適用															
規制区分	普通薬 局方			日本標準商品分類番号	872615																	
厚生労働省薬価基準収載医薬品コード	2615700X1015			YJコード	2615700X1368																	
構造式	$\begin{array}{c} \text{OH} \\ \\ \text{C}_3\text{H}_8\text{O} \\ \text{分子量: 60.10} \\ \text{CH}_3-\text{CH}-\text{CH}_3 \end{array}$			性状	無色澄明の液で、特異なおいがある。 水、メタノール、エタノール(95)又はジエチルエーテルと混和する。 燃えやすく、揮発性である。																	
組成	イソプロパノール99%以上を含む																					
効能効果	手指・皮膚の消毒、医療用具の消毒																					
用法用量	通常イソプロパノールとして、50～70%液を用いる。																					
薬理作用	本剤は、微生物のたん白質を変性凝固させて殺菌作用を示し、使用濃度において栄養型細菌（グラム陽性菌、グラム陰性菌）、酵母菌、ウイルス等には有効であるが、芽胞（炭疽菌、破傷風菌等）及び一部のウイルスに対する殺菌効果は期待できない。今日消毒用としてエタノールの代わりに広く用いられているが、エタノールより殺菌作用は強く、器具に対する腐食作用は弱い。																					
毒性	<table border="1"> <tr> <td>LD (mg/kg)</td> <td>ウサギ</td> <td>イヌ</td> <td>ラット</td> <td>ネコ</td> </tr> <tr> <td>(イソプロパノールとして)</td> <td>静注 8.23</td> <td>5.21</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>経口 7.0</td> <td>7.5</td> <td>8.0</td> <td>6.0</td> </tr> </table>							LD (mg/kg)	ウサギ	イヌ	ラット	ネコ	(イソプロパノールとして)	静注 8.23	5.21				経口 7.0	7.5	8.0	6.0
LD (mg/kg)	ウサギ	イヌ	ラット	ネコ																		
(イソプロパノールとして)	静注 8.23	5.21																				
	経口 7.0	7.5	8.0	6.0																		
使用上の注意	<p>【禁忌（次の部位には使用しないこと）】 損傷皮膚及び粘膜（損傷皮膚及び粘膜への使用により、刺激作用を有する。）</p> <p>1. 重要な基本的注意 (1) 本剤が眼に入らないよう注意すること。入った場合には直ちに水でよく洗い流すこと。 (2) 広範囲または長期間使用する場合には蒸気の吸入に注意すること。〔イソプロパノール蒸気に大量または繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、頭痛等を起こすことがある。〕</p> <p>2. 副作用 本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <table border="1"> <tr> <td>種類/頻度</td> <td>頻度不明</td> </tr> <tr> <td>過敏症^{注)}</td> <td>発疹等</td> </tr> <tr> <td>皮膚^{注)}</td> <td>刺激症状</td> </tr> </table> <p>注) このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。</p> <p>3. 臨床検査値への影響 注射部位に赤発を起こすことがあるので、アレルギーテストの判断を妨害することがある。</p> <p>4. 適用上の注意 (1) 投与経路：外用にのみ使用すること。 (2) 使用時 1) 同一部位に反復使用した場合には脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。 2) 本剤は血清、膿汁等のたん白質を凝固させ内部まで浸透させないことがあるので、これらが付着している医療器具等に用いる場合には十分に洗い落としてから使用すること。 3) 本剤は、引火性、爆発性があるため、火気に注意すること。</p>							種類/頻度	頻度不明	過敏症 ^{注)}	発疹等	皮膚 ^{注)}	刺激症状									
種類/頻度	頻度不明																					
過敏症 ^{注)}	発疹等																					
皮膚 ^{注)}	刺激症状																					
取扱い上の注意	貯法：気密容器、火気を避けて保存。																					
備考	アルコール類 水溶性 危険等級Ⅱ 火気厳禁 包装単位：500mL, 16L			文献 請求先	吉田製薬株式会社 学術部 東京都中野区中央5-1-10																	